

## 第4章 健診・保健指導の状況

集計対象世帯 3,597 世帯の世帯員（20 歳以上）6,403 人のうち、40 歳以上 75 歳未満の 3,859 人が調査対象

### 1 過去1年間の健診・人間ドックの受診の有無

過去1年間に、健診や人間ドックを「受けた」割合が 69.0%、「受けていない」が 27.4%となっている。（図Ⅱ-4-1）

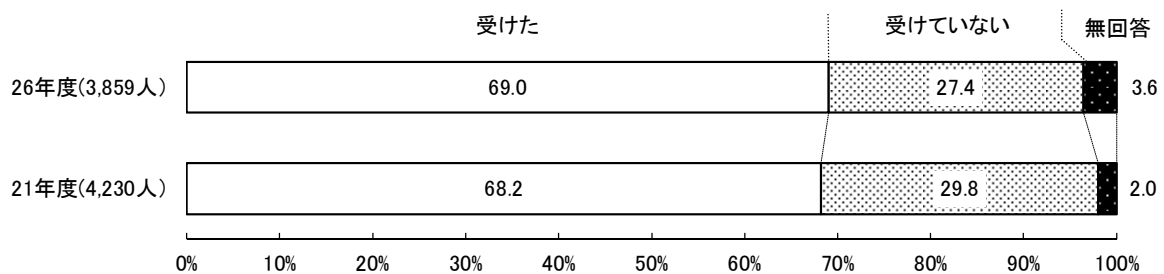
問 あなたは過去1年間に、健診（加入する医療保険者が実施する特定健康診査、職場の事業主が実施する定期健康診断）や人間ドックを受けましたか。

#### ※ 特定健康診査

医療保険者は、40～74 歳の加入者（被保険者及び被扶養者）に対し、特定健康診査（メタボリックシンドロームに着目した検査項目での健康診査）を行うものとされている。ただし、加入者が人間ドック等で特定健康診査に相当する検査を受け、その結果を証明する書面の提出があった場合は、特定健康診査を受けたものとみなされる。

また、加入者が、労働安全衛生法（昭和 47 年法律第 57 号）その他の法令に基づき行われる特定健康診査に相当する健康診断を受けた場合又は受けることができる場合は、特定健康診査の全部又は一部を行ったものとする事とされている。

図Ⅱ-4-1 過去1年間の健診・人間ドックの受診の有無



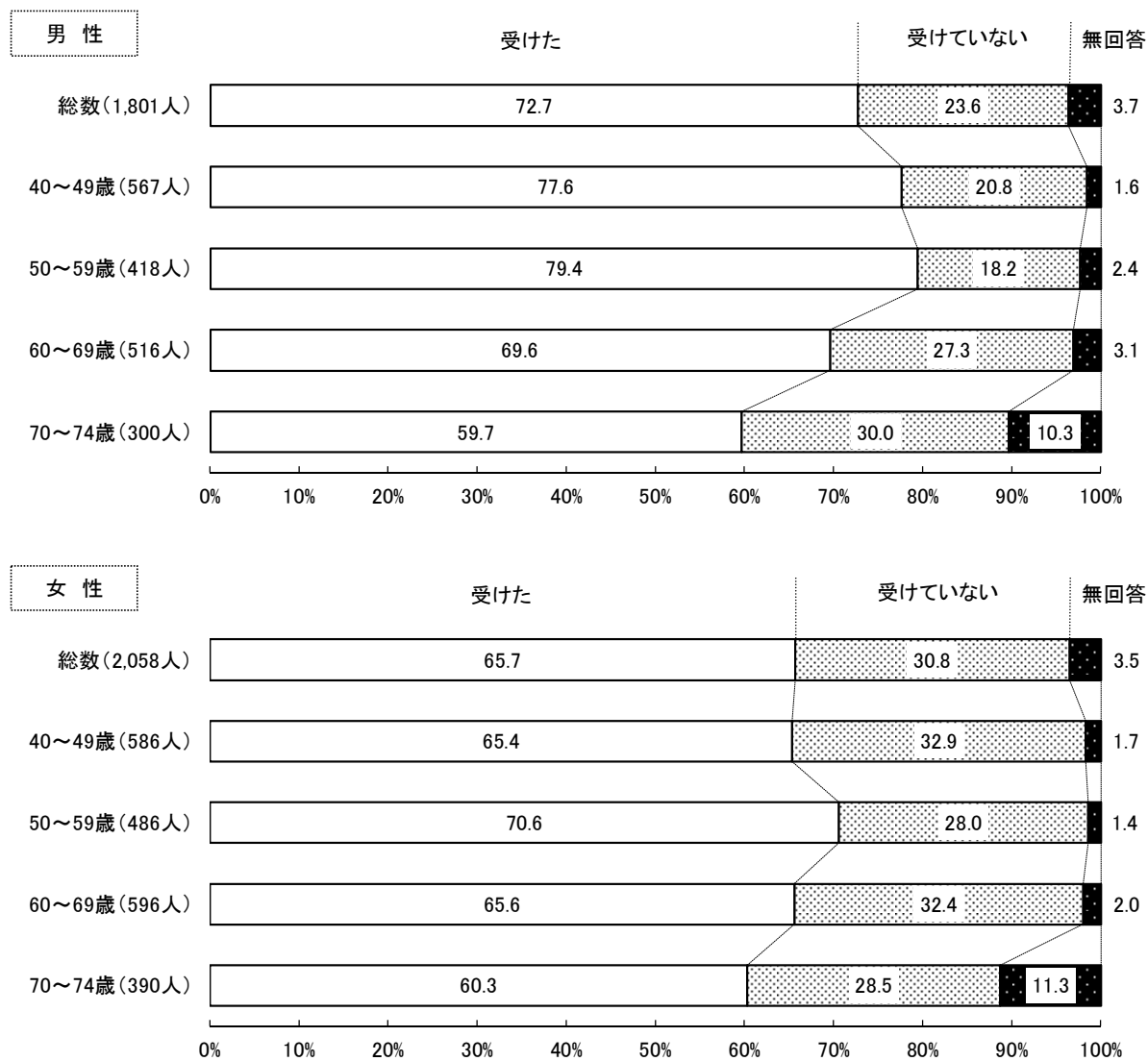
注) がん検診のみの受診、妊産婦検診、歯の健康診査、病院や診療所で行う診療としての検査は、含まない。

(1) 過去1年間の健診・人間ドックの受診の有無一性・年齢階級別

健診・人間ドックを受けた人の割合は、女性より男性の方が高い

過去1年間に健診・人間ドックの受診を受けたことが「ある」人の割合を性別で見ると、男性は72.7%、女性は65.7%で、男性の方が7ポイント高くなっている。(図Ⅱ-4-2)

図Ⅱ-4-2 過去1年間の健診・人間ドックの受診の有無一性・年齢階級別



(2) 過去1年間の健診・人間ドックの受診の有無－就業状況別

主に仕事をしている人で、健診・人間ドックを受診した人は、約8割

過去1年間の健診・人間ドックの受診の有無を就業状況別にみると、健診・人間ドックを「受けた」割合は、主に仕事をしている人が79.1%と最も高くなっている。(表Ⅱ-4-1)

表Ⅱ-4-1 過去1年間の健診・人間ドックの受診の有無－就業状況別

	総 数	受 け た	受 け て い ない	無 回 答
総数	100.0 (3,859)	69.0	27.4	3.6
労働力人口	100.0 (2,514)	75.9	21.7	2.3
就業者	100.0 (2,486)	76.4	21.2	2.4
主に仕事	100.0 (1,979)	<u>79.1</u>	18.4	2.4
家事などのかたわらに仕事	100.0 (463)	65.7	32.4	1.9
その他	100.0 (44)	68.2	27.3	4.5
仕事を探していた	100.0 (28)	32.1	67.9	-
非労働力人口	100.0 (1,331)	55.9	38.1	6.0
家事(専業)	100.0 (603)	56.7	39.0	4.3
その他(幼児・高齢・病気等)	100.0 (724)	55.2	37.3	7.5
21年度	100.0 (4,230)	68.2	29.8	2.0

注1) 就業者のうち、通学のかたわらに仕事については、該当者がいないため省略した。

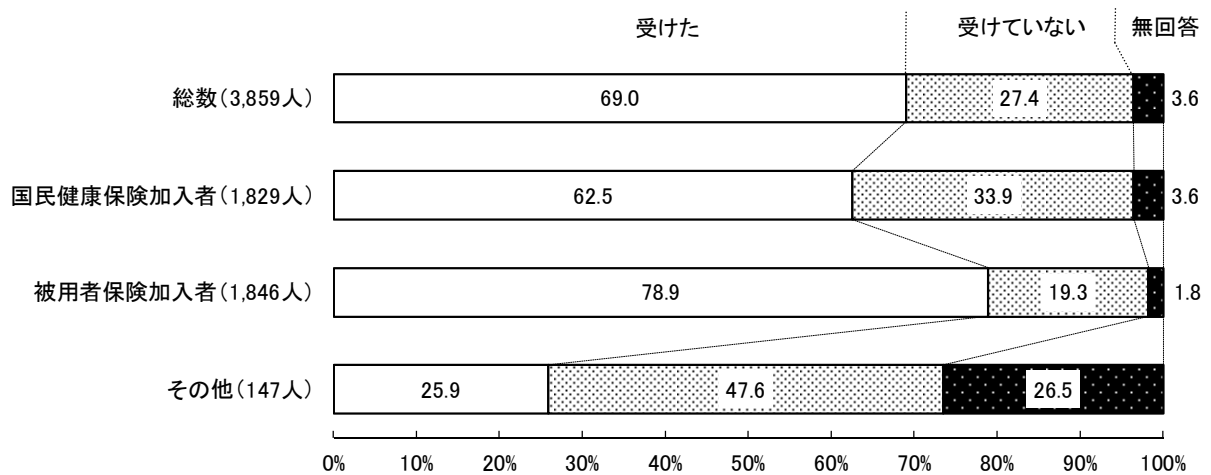
2) 非労働力人口のうち、通学のみについては、母集団が4人のため省略した。

(3) 過去1年間の健診・人間ドックの受診の有無－医療保険の種類別

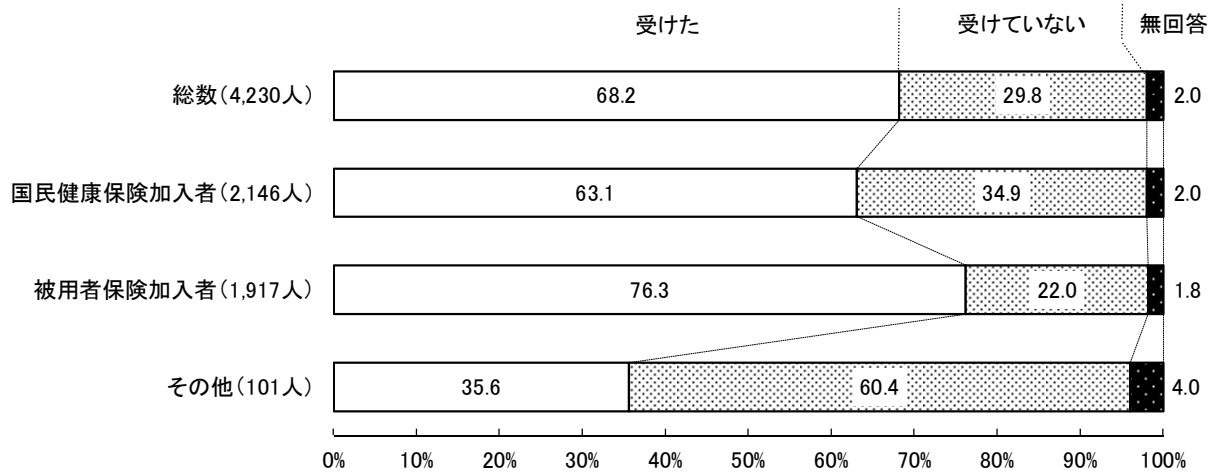
健診・人間ドックを受診した人は、国民健康保険加入者が6割、被用者保険加入者が約8割

過去1年間の健診・人間ドックの受診の有無を医療保険の種類別にみると、「受けた」割合は、国民健康保険加入者が62.5%、被用者保険加入者が78.9%で、被用者保険加入者の方が16.4ポイント高くなっている。(図Ⅱ-4-3)

図Ⅱ-4-3 過去1年間の健診・人間ドックの受診の有無－医療保険の種類別



21年度

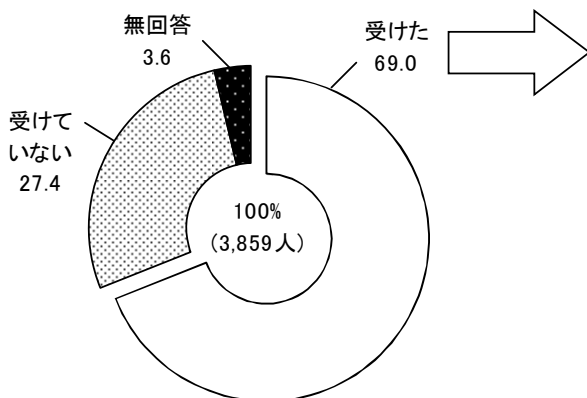


## 2 健診の種類、方法、時期

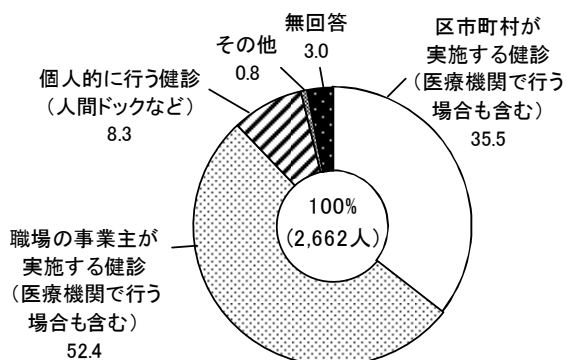
健診・人間ドックを受診した人（2,662人）に、健診等を受けた種類、方法、時期を聞いたところ、種類については、「職場の事業主が実施する健診（医療機関で行う場合も含む）」の割合が、52.4%、方法については、「個別健診（医療機関や健診機関等で個別に受ける健診）」の割合が55.0%、時期については、「平日昼間」の割合が90.6%と、それぞれ最も高くなっている。（図Ⅱ-4-4、図Ⅱ-4-5、図Ⅱ-4-6、図Ⅱ-4-7）

問 健診を受けた方法、場所、時期などについて、あてはまるものを選んでください。

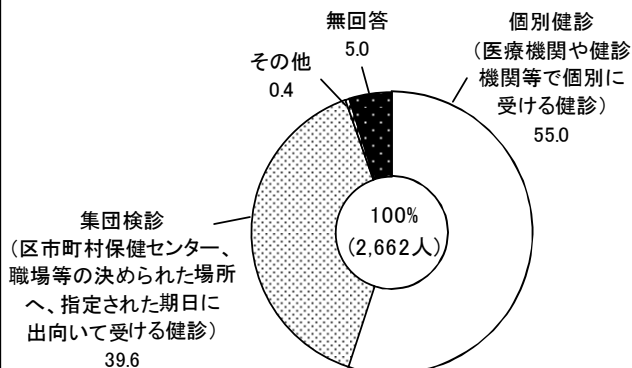
図Ⅱ-4-4 健診・人間ドックの受診の有無



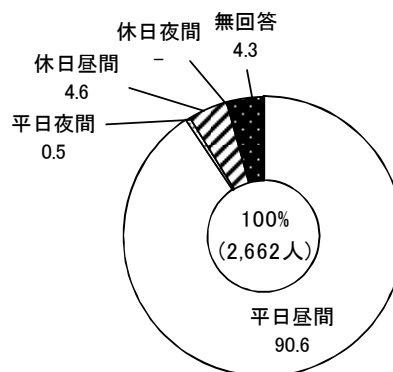
図Ⅱ-4-5 健診・人間ドックの種類



図Ⅱ-4-6 健診・人間ドックの方法



図Ⅱ-4-7 健診・人間ドックの時期



(1) 健診の種類－就業状況別

主に仕事をしている人は、「職場の事業主が実施する健診」を受診した人が、7割

健診の種類を就業状況別にみると、主に仕事をしている人は、「職場の事業主が実施する健診（医療機関で行う場合も含む）」の割合が最も高く、70.5%となっている。

家事（専業）、その他（幼児、高齢、病気等）の人は、「区市町村が実施する健診（医療機関で行う場合も含む）」の割合が高く、それぞれ54.4%、77.5%となっている。（表Ⅱ-4-2）

表Ⅱ-4-2 健診の種類－就業状況別

	総 数	（区 市 町 村 が 実 施 す る 健 診 も 含 む ）※	（職 場 の 事 業 主 が 実 施 す る 健 診 も 含 む ）	（個 人 的 に 行 う 健 診 ）	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (2,662)	35.5	52.4	8.3	0.8	3.0
労働力人口	100.0 (1,909)	23.3	65.0	8.1	0.7	2.9
就業者	100.0 (1,900)	23.1	65.2	8.1	0.7	2.9
主に仕事	100.0 (1,566)	18.6	<u>70.5</u>	7.7	0.4	2.7
家事などのかたわらに仕事	100.0 (304)	42.4	41.4	10.2	2.0	3.9
その他	100.0 (30)	60.0	30.0	6.7	-	3.3
非労働力人口	100.0 (744)	66.7	20.3	8.9	0.9	3.2
家事(専業)	100.0 (342)	<u>54.4</u>	33.9	8.2	0.9	2.6
その他(幼児・高齢・病気等)	100.0 (400)	<u>77.5</u>	8.3	9.5	1.0	3.8
21年度	100.0 (2,886)	36.4	47.3	11.1	1.1	4.1

- 注1) 就業者のうち、通学のかたわらに仕事については、該当者がいないため省略した。
- 2) 労働力人口のうち、仕事を探していたについては、母集団が9人のため省略した。
- 3) 非労働力人口のうち、通学のみについては、母集団が2人のため省略した。
- 4) 21年度調査では、※は「市区町村が実施する健診（医療機関で行う場合も含む）」としていた。



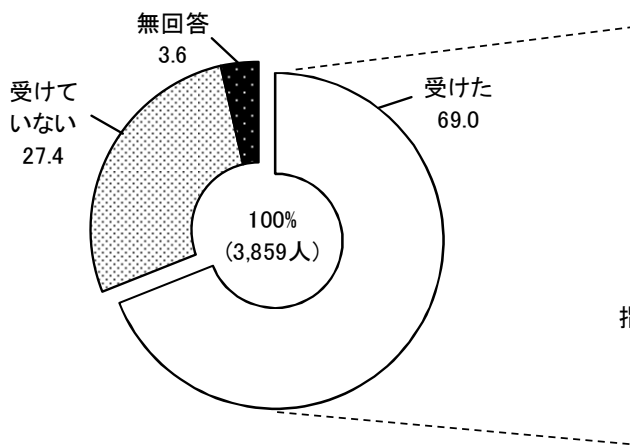
### 3 健診結果の指摘の有無とその内容[複数回答]

過去1年間に健診・人間ドックを受診したことがある人(2,662人)のうち、「肥満」「高血圧」「糖尿病」「血中の脂質異常(注)」のいずれかの指摘を受けた人は51.6%であった。(図Ⅱ-4-8、図Ⅱ-4-9)

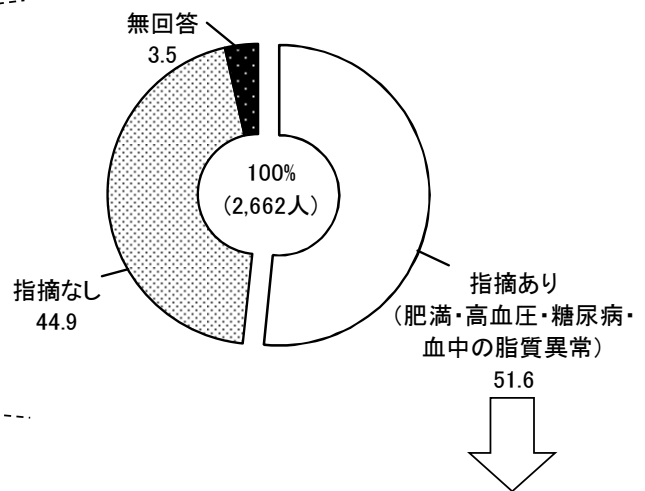
また、「指摘あり」と回答した人(1,374人)の指摘の内容をみると、「血中の脂質異常」の割合が最も高く59.3%、次いで「高血圧」が42.4%、「肥満」が28.6%と続いている。(図Ⅱ-4-10)

問 健診の結果、次のような(肥満、高血圧、糖尿病、血中の脂質異常)指摘を受けましたか。

図Ⅱ-4-8 健診・人間ドックの受診の有無

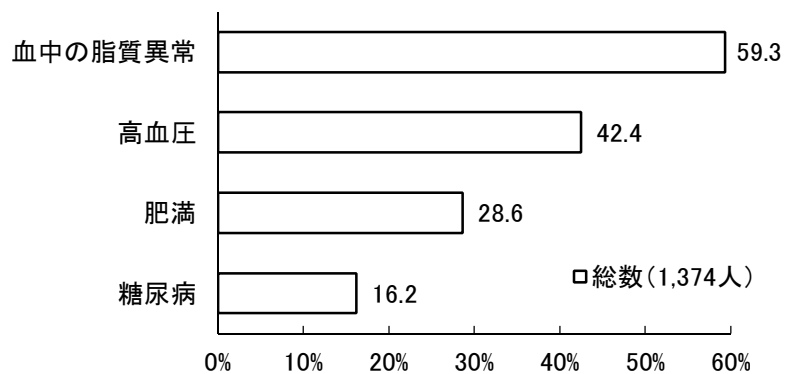


図Ⅱ-4-9 健診結果の指摘の有無



図Ⅱ-4-10 健診結果の指摘の内容

[複数回答]

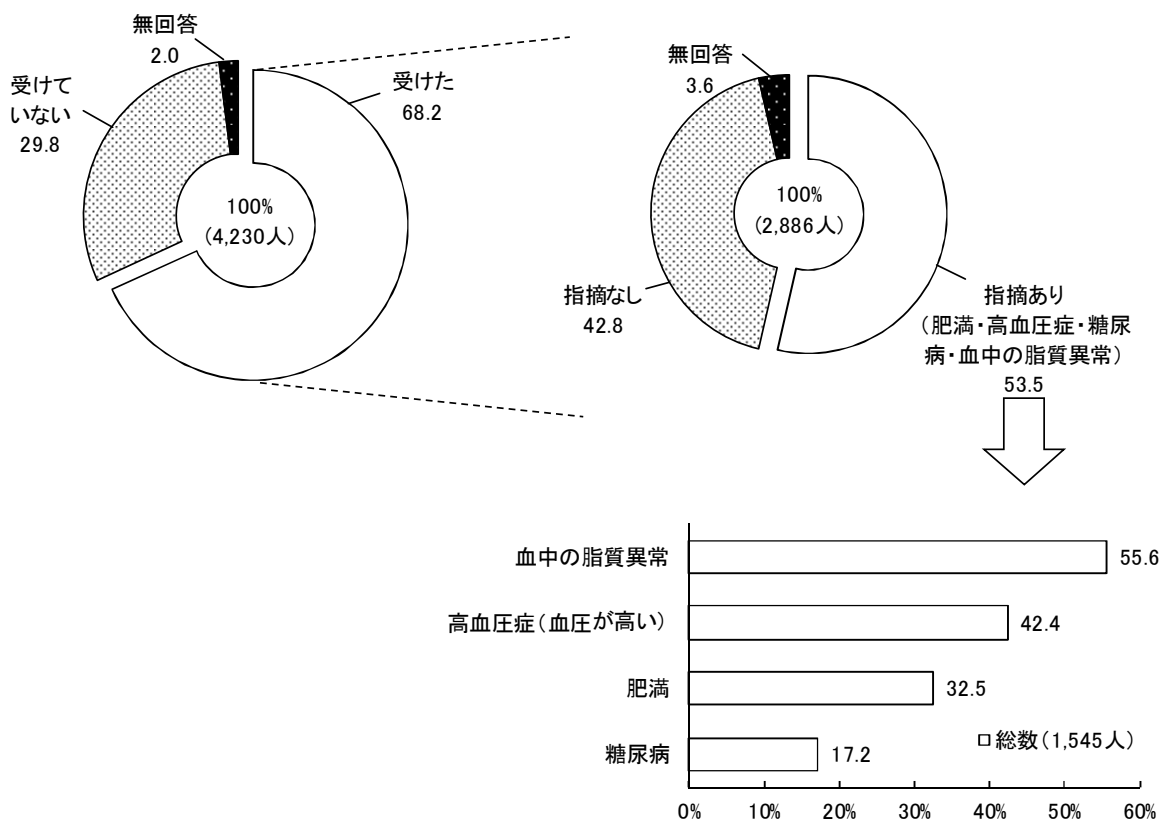


注) 血中の脂質異常とは次のいずれかを指す。

- ・総コレステロール、LDL(悪玉)コレステロールや中性脂肪(トリグリセライド)が高い。
- ・HDL(善玉)コレステロールが低い。



21 年度



(1) 健診結果の指摘の有無とその内容[複数回答]—性・年齢階級別

健診結果の「指摘あり」の割合は、女性よりも男性の方が17.5ポイント高い

健診結果の指摘の有無を性別で見ると、「指摘あり」の割合は、男性60.5%、女性43.0%で、男性の方が17.5ポイント高くなっている。「指摘なし」の割合は、40代女性が71.0%と最も高くなっている。(表Ⅱ-4-3)

表Ⅱ-4-3 健診結果の指摘の有無とその内容[複数回答]—性・年齢階級別

	総数	指摘あり	指摘ありの内訳				指摘なし	無回答
			肥満	高血圧	(糖尿病 値が高い)	血中の 脂質異常		
総数	100.0 (2,662)	51.6	14.8	21.9	8.3	30.6	44.9	3.5
男	100.0 (1,310)	<u>60.5</u>	19.9	26.8	11.2	33.5	36.9	2.6
40～49歳	100.0 (440)	48.4	19.8	12.7	4.8	33.2	50.2	1.4
50～59歳	100.0 (332)	63.0	20.8	25.9	11.7	36.4	35.2	1.8
60～69歳	100.0 (359)	71.9	21.2	39.3	15.6	35.1	25.6	2.5
70～74歳	100.0 (179)	62.6	16.2	38.0	17.3	25.7	30.2	7.3
女	100.0 (1,352)	<u>43.0</u>	9.8	17.2	5.5	27.8	52.5	4.4
40～49歳	100.0 (383)	25.8	8.9	5.2	2.3	17.8	<u>71.0</u>	3.1
50～59歳	100.0 (343)	40.8	12.2	13.1	6.4	27.7	55.7	3.5
60～69歳	100.0 (391)	54.7	8.4	22.5	6.1	36.8	41.7	3.6
70～74歳	100.0 (235)	54.9	9.8	33.6	8.5	29.4	35.7	9.4
21年度	100.0 (2,886)	53.5	17.4	22.7	9.2	29.8	42.8	3.6

(2) 健診結果の指摘の有無とその内容[複数回答]－健康状態別

健康状態をよいと感じる人は、健診の結果「指摘なし」の割合は、6割

健診結果の「指摘あり」の内容を健康状態別にみると、健康状態をよいと感じる人は、「高血圧」「糖尿病」「血中の脂質異常」の指摘された割合が、健康状態をまあよい、よくない、あまりよくないと感じる人より低くなっている。

また、健康状態をよいと感じる人は、「指摘なし」の割合が60.3%と最も高かった。(表Ⅱ-4-4)

表Ⅱ-4-4 健診結果の指摘の有無とその内容[複数回答]－健康状態別

	総 数	指 摘 あ り	指 摘 あ り				指 摘 な し	無 回 答
			肥 満	高 血 圧	(糖 尿 病 血 糖 値 が 高 い )	血 中 の 脂 質 異 常		
総数	100.0 (2,662)	51.6	14.8	21.9	8.3	30.6	44.9	3.5
よい	100.0 (629)	36.9	9.4	<u>11.9</u>	<u>4.1</u>	<u>21.5</u>	<u>60.3</u>	2.9
まあよい	100.0 (1,631)	54.6	15.0	23.3	7.8	32.6	41.4	4.0
あまりよくない	100.0 (347)	62.8	24.2	31.7	17.0	37.2	34.9	2.3
よくない	100.0 (44)	61.4	9.1	34.1	20.5	34.1	36.4	2.3

#### 4 特定保健指導の有無とその内容、実行の程度

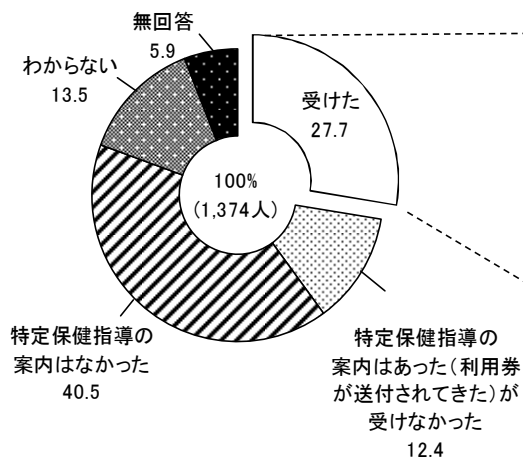
健診・人間ドックの受診結果で「指摘あり」と回答した人（1,374人）に特定保健指導（注）を受けたかどうか聞いたところ、「受けた」と回答した人の割合は27.7%であった。一方で、「特定保健指導の案内はなかった」と回答した人の割合は、40.5%となっている。（図Ⅱ-4-11）

「受けた」と回答した人（380人）にその指導内容を聞いたところ、「動機付け支援」の割合が56.6%と最も高くなっている。（図Ⅱ-4-12）

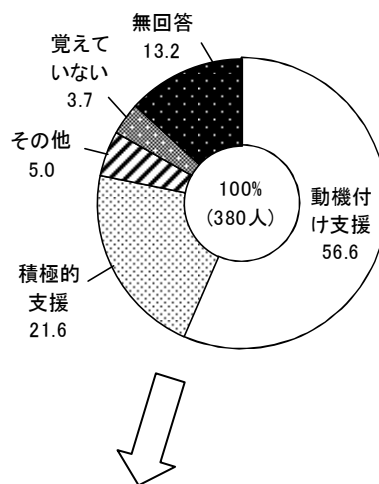
さらに、特定保健指導で計画した内容をどの程度実行しているか聞いたところ、「おおむね実行している」割合が46.1%、「一部実行している」が31.8%であった。（図Ⅱ-4-13）

- 問 健康診断の結果、特定保健指導を受けましたか。
- 問 受けた特定保健指導は、どのようなものでしたか。
- 問 指導された内容についてどの程度実行していますか。

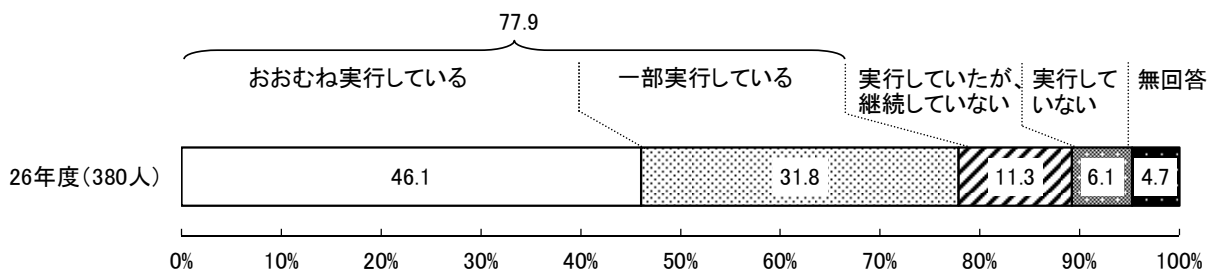
図Ⅱ-4-11 保健指導の有無



図Ⅱ-4-12 指導内容



図Ⅱ-4-13 実行の程度



(注)

<対象者>

- 腹囲が男性 85 cm以上・女性 90 cm以上で、高血圧・高血糖・脂質異常の所見が1つ以上あった方
- 腹囲が男性 85 cm未満・女性 90 cm未満であるが、BMIが25以上で、高血圧・高血糖・脂質異常の所見が1つ以上あった方

<指導の種類>

- 動機付け支援・・・原則1回の保健指導を受けます。
- 積極的支援・・・3～6か月の間、複数回、継続的に保健指導（面接・電話・メール等）を受けます。

(1) 特定保健指導の有無一性・年齢階級別

健診結果で指摘があった人のうち、男性では4.5割、女性では3割の人が特定保健指導の対象となった

特定保健指導の有無を性・年齢階級別にみると、「特定保健指導を受けた」と「特定保健指導の案内はあった（利用券は送られてきた）が受けなかった」を合わせた特定保健指導の対象となった人の割合は男性46.8%、女性30.8%で、男性の方が16ポイント高くなっている。（表Ⅱ-4-5）

表Ⅱ-4-5 特定保健指導の有無一性・年齢階級別

	総 数	特定 保健 指導 を受 けた	受 け な か つ た	特 定 保 健 指 導 の 案 内 は あ つ た	特 定 保 健 指 導 の 案 内 は な か つ た	わ か ら な い	無 回 答	
総数	100.0 (1,374)	27.7	12.4	40.0		40.5	13.5	5.9
男	100.0 (792)	33.0	13.9	46.8		34.8	13.6	4.7
40～49歳	100.0 (213)	31.9	14.1			33.8	16.4	3.8
50～59歳	100.0 (209)	32.1	16.3			34.0	14.4	3.3
60～69歳	100.0 (258)	33.3	12.4			35.7	12.8	5.8
70～74歳	100.0 (112)	35.7	12.5			36.6	8.9	6.3
女	100.0 (282)	20.4	10.3	30.8		48.3	13.4	7.6
40～49歳	100.0 (99)	12.1	14.1			54.5	17.2	2.0
50～59歳	100.0 (140)	12.9	11.4			50.7	19.3	5.7
60～69歳	100.0 (214)	24.3	10.3			48.6	9.3	7.5
70～74歳	100.0 (129)	28.7	6.2			40.3	10.9	14.0
21年度	100.0 (1,545)	28.8	8.5	37.3		43.2	12.2	7.2

注) 統計比率を合算した比率(40.0%、46.8%、30.8%)は、個々の数値を合算して求めているため、比率の内の合計とは一致しない。

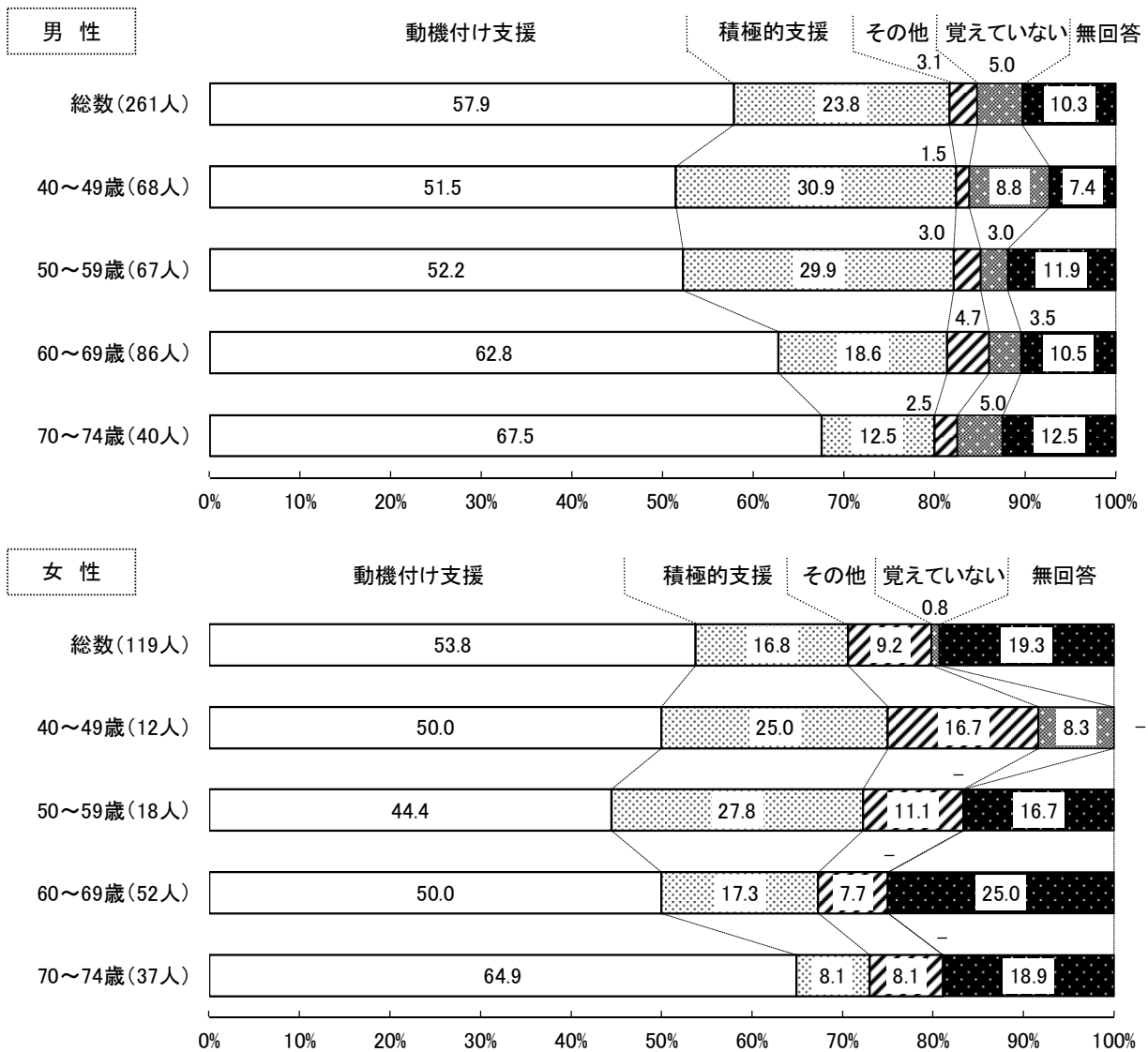
(2) 特定保健指導の内容一性・年齢階級別

40代～50代男性は、「積極的支援」の割合が3割

特定保健指導の内容を性別で見ると、男女とも「動機付け支援」の割合が最も高く、それぞれ、57.9%、53.8%となっている。

年齢階級別で見ると、40代～50代の男性は、「積極的支援」の割合が30.9%、29.9%で高くなっている。(図Ⅱ-4-14)

図Ⅱ-4-14 特定保健指導の内容一性・年齢階級別



注)「特定健康診査及び特定保健指導の実施に関する基準」(厚生労働省令)65歳から74歳の方に対する特定保健指導については、「積極的支援」の対象となった場合でも「動機付け支援」とすることとされている。

(3) 特定保健指導内容の実行程度－性・年齢階級別

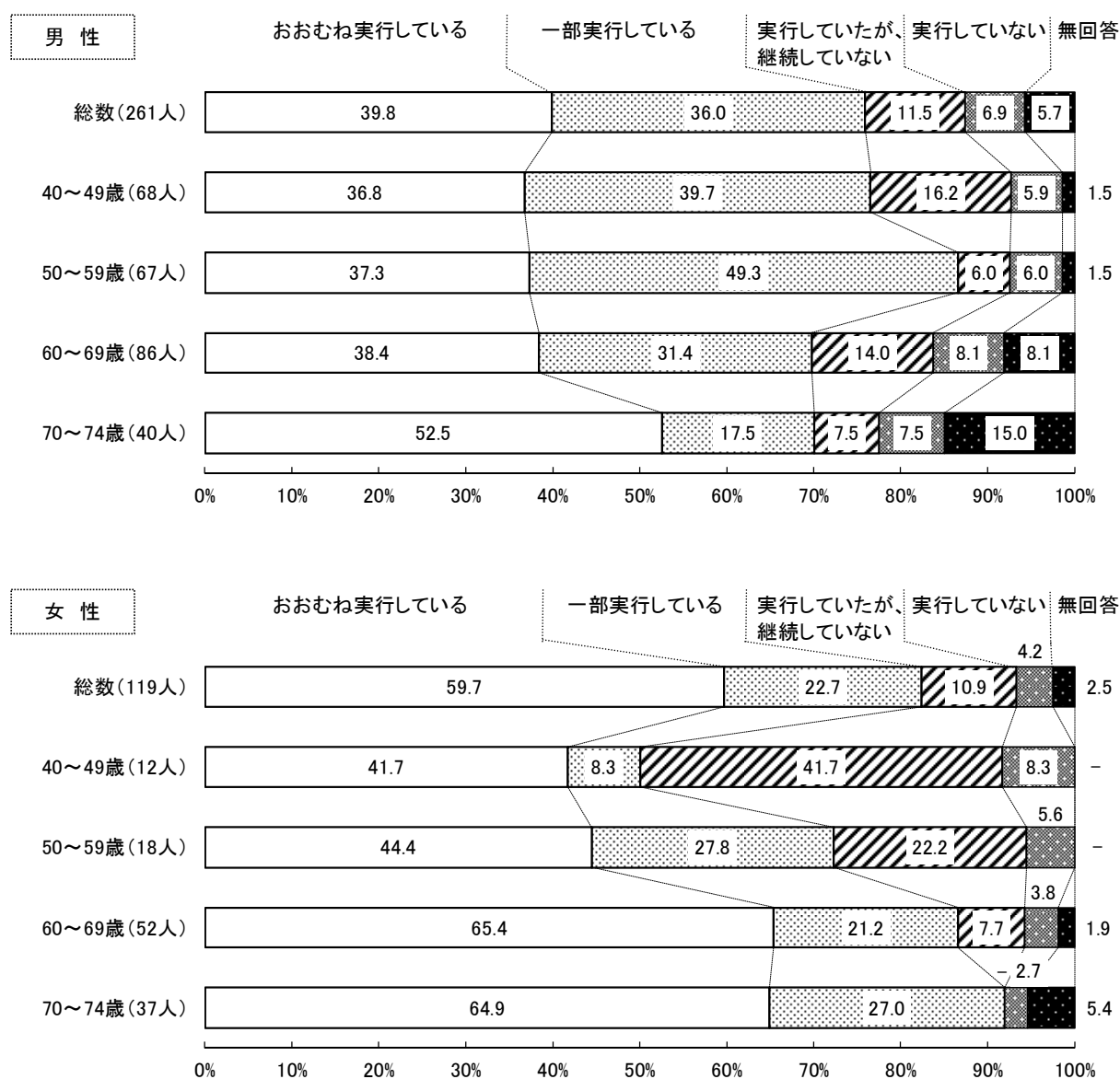
50代男性は、特定保健指導の内容を「一部実行している」割合が高く、約5割

特定保健指導内容の実行程度を性別にみると、「おおむね実行している」割合は、男性39.8%、女性59.7%で、女性の方が19.9ポイント高くなっている。

年齢階級別にみると、50代男性は、「一部実行している」の割合が49.3%と高く、約5割となっている。

40代女性は、「実行していたが、継続していない」の割合が41.7%と高く、約4割となっている。(図Ⅱ-4-15)

図Ⅱ-4-15 保健指導内容の実行程度－性・年齢階級別

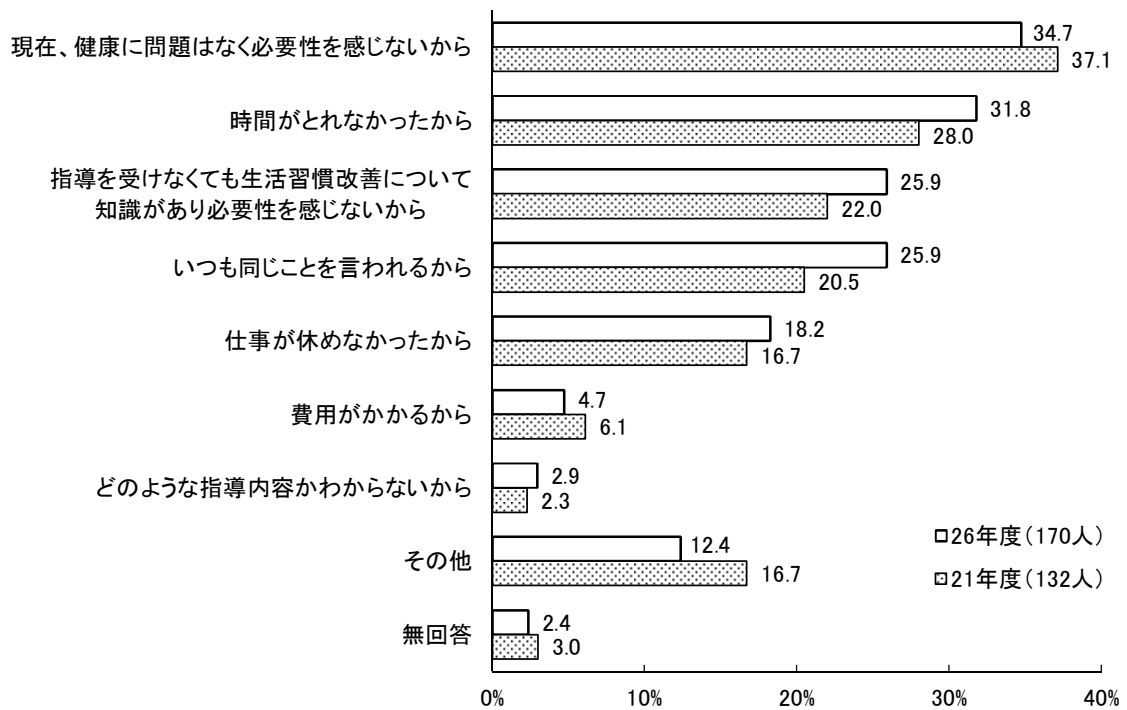


## 5 特定保健指導を受けなかった理由[複数回答]

特定保健指導を受けなかった人(170人)にその理由を聞いたところ、「現在、健康に問題はなく必要性を感じないから」が、34.7%と最も高く、次いで「時間がとれなかったから」が31.8%となっている。(図Ⅱ-4-16)

問 特定保健指導を受けなかった理由は何ですか。

図Ⅱ-4-16 特定保健指導を受けなかった理由[複数回答]





## 6 医療機関受診勧奨の有無と受診の有無

健診・人間ドックの受診結果で「指摘あり」と回答した人（1,374人）に医療機関を受診するよう勧められたかどうか聞いたところ、「受診を勧められた」人の割合は36.9%であった。

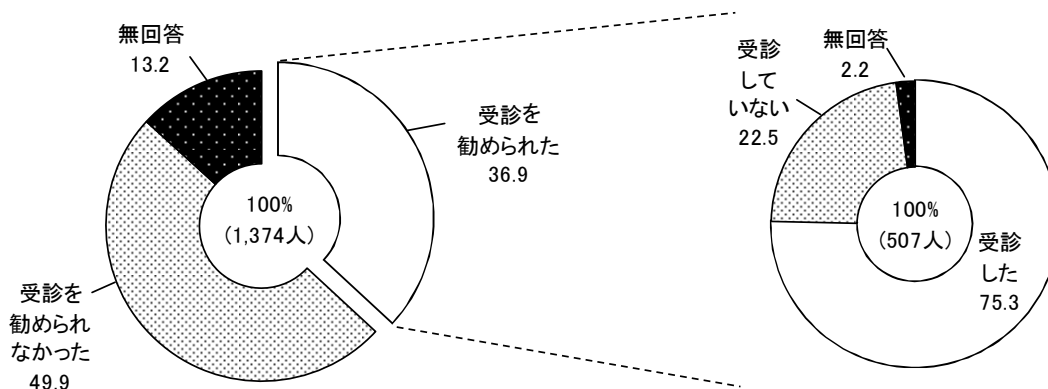
また、「受診を勧められた」人（507人）に、その後医療機関を受診したかどうか聞いたところ、75.3%が「受診した」と回答した。（図Ⅱ-4-17）

問 医療機関を受診するように勧められましたか。

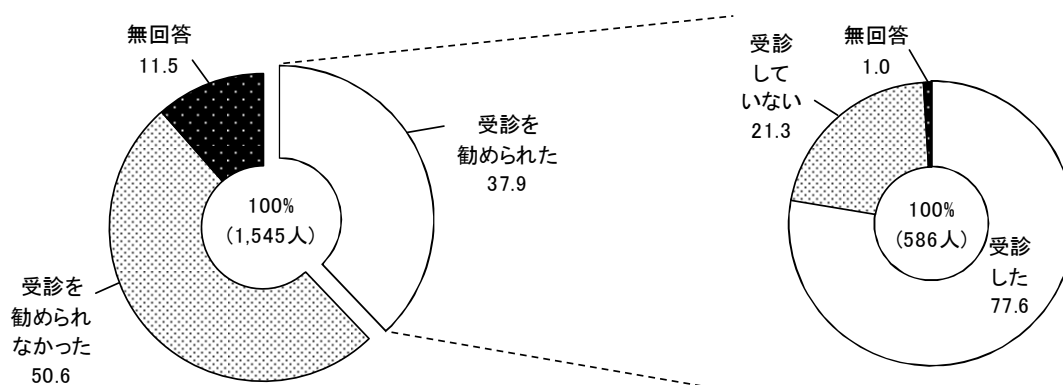
注) 検査目的の受診は除く。

問 その後、医療機関に行きましたか。

図Ⅱ-4-17 医療機関受診勧奨の有無と受診の有無



## 21年度

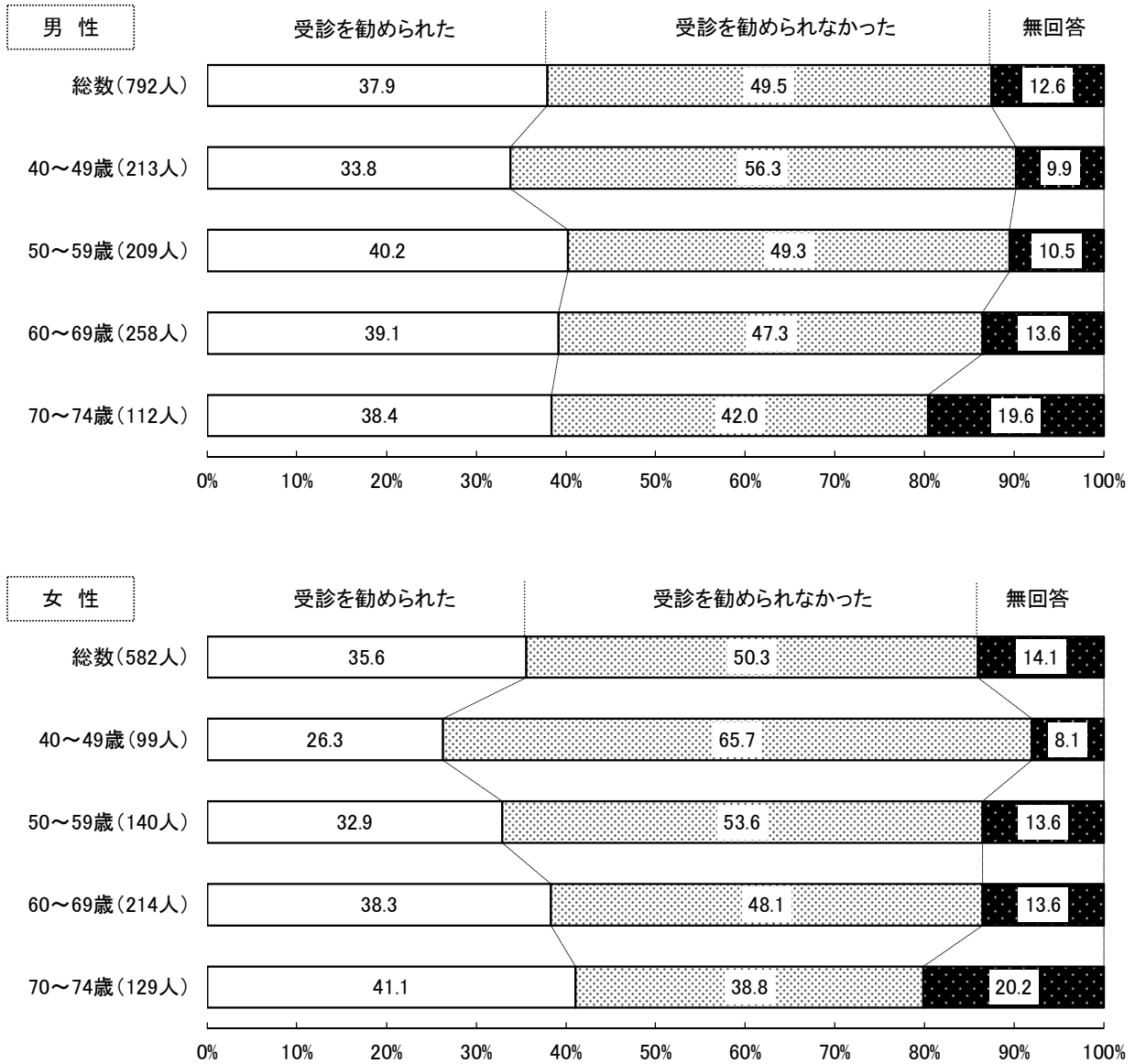


(1) 医療機関受診勧奨の有無一性・年齢階級別

医療機関の「受診を勧められた」割合は、女性よりも男性の方がやや高い

医療機関の受診を勧められたかどうか性・年齢階級別にみると「受診を勧められた」割合は、男性 37.9%、女性 35.6%で、男性の方がやや高くなっている。(図Ⅱ-4-18)

図Ⅱ-4-18 医療機関受診勧奨の有無一性・年齢階級別



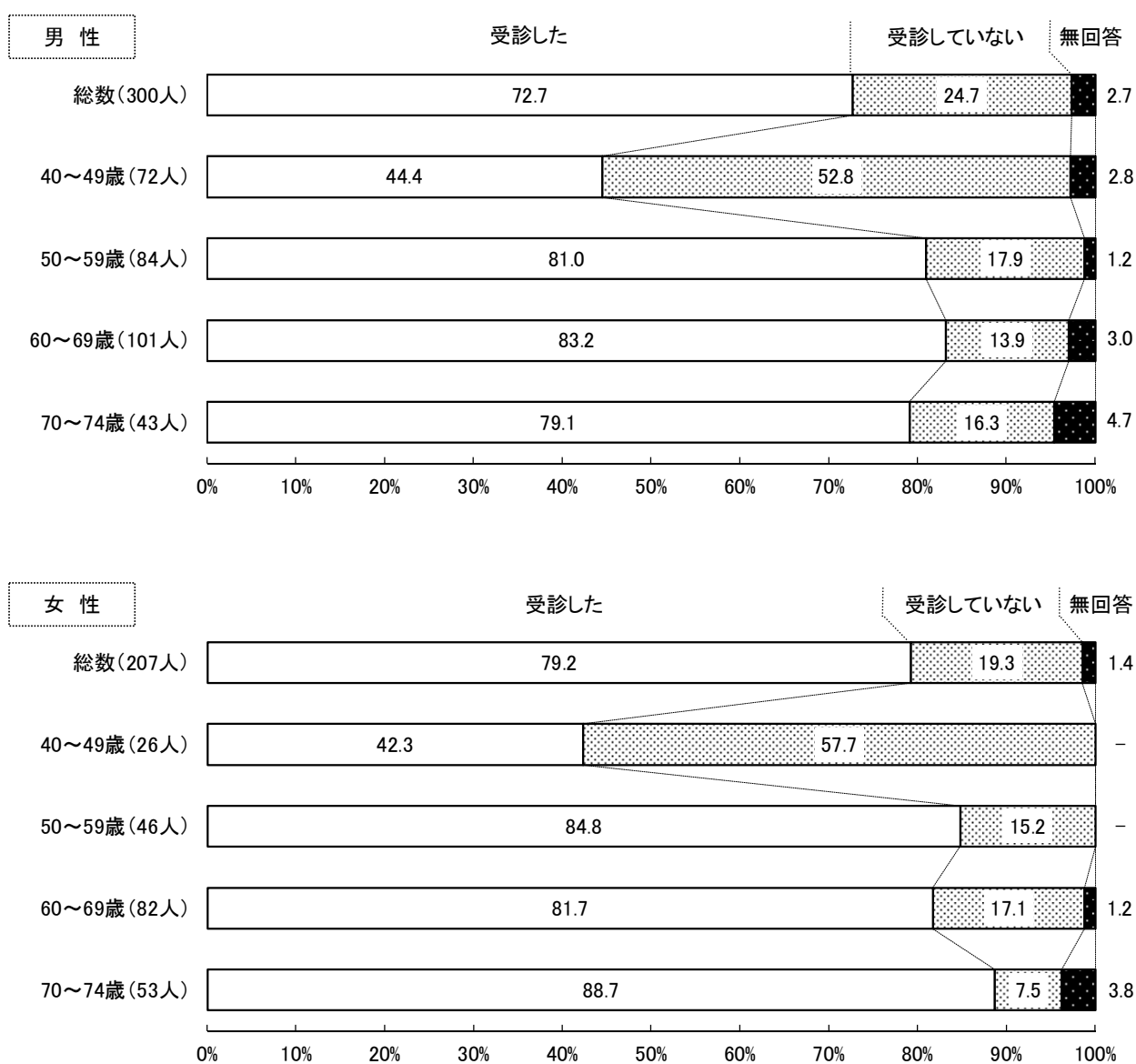
(2) 医療機関の受診を勧められた後の医療機関の受診の有無一性・年齢階級別

医療機関の受診を勧められて実際に受診をしている割合は、男性よりも女性の方が高く、女性は約8割

医療機関で受診するよう勧められた人が、その後医療機関を受診したかどうかを、性・年齢階級別にみると、「受診した」割合は、男性72.7%、女性79.2%で、女性の方が6.5ポイント高くなっている。

一方、「受診していない」割合は、男女とも40代が高く、それぞれ52.8%、57.7%で5割を超えている。(図Ⅱ-4-19)

図Ⅱ-4-19 医療機関の受診を勧められた後の医療機関の受診の有無一性・年齢階級別

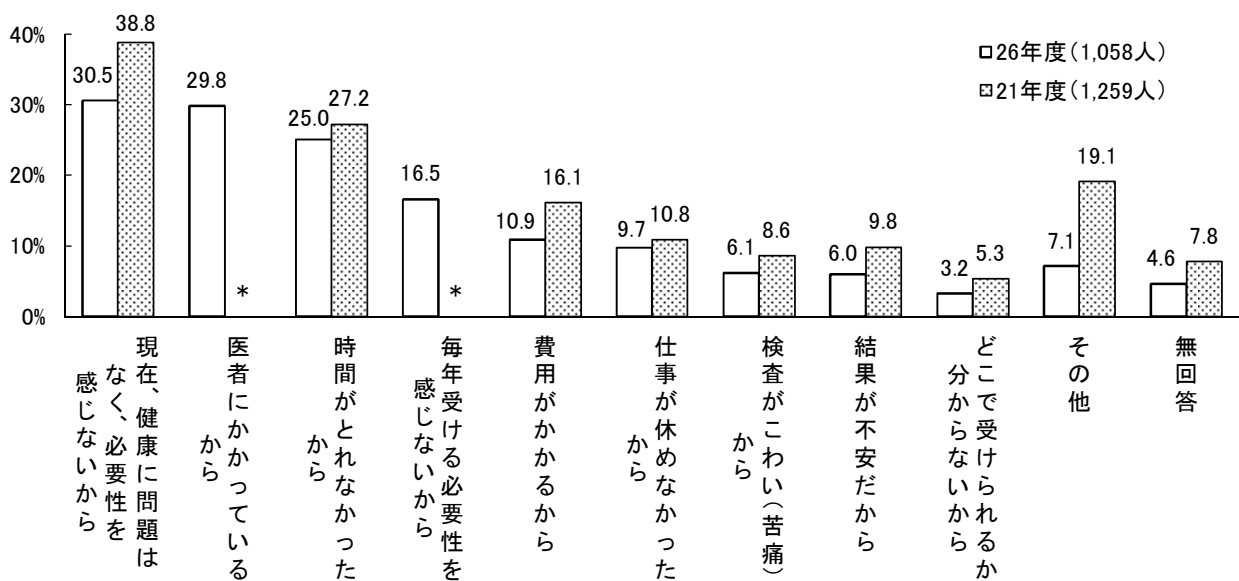


## 7 健診を受けなかった理由[複数回答]

過去1年間に、健診や人間ドックを受けていない人(1,058人)に受けなかった理由を聞いたところ、「現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから」の割合が30.5%で最も高く、次いで、「医者にかかっているから」が29.8%、「時間がとれなかったから」が25.0%となっている。(図Ⅱ-4-20)

問 健診を受けなかった理由は何ですか。

図Ⅱ-4-20 健診を受けなかった理由[複数回答]



注) \*は21年度調査時に選択肢を設けなかったもの。

(1) 健診を受けなかった理由[複数回答]—性・年齢階級別

健診を受けなかった理由は、男女とも、「現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから」「医者にかかっているから」の割合が高い

健診を受けなかった理由について、性・年齢階級別にみると、男女とも「現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから」の割合が最も高く、男性 31.1%、女性 30.2%となっている。

一方、「医者にかかっているから」の割合も高く、男性 31.1%、女性 28.9%となっている。「仕事が休めなかったから」は、男性 14.8%、女性 6.3%で、男性の方が 8.5 ポイント高くなっている。(表Ⅱ-4-6)

表Ⅱ-4-6 健診を受けなかった理由[複数回答]—性・年齢階級別

	総 数	現在、健康に 問題を感 じないから	毎年受ける 必要性を感 じないから	医者にかか っているから	どこで受け られるか分 からないから	検査がこわ い(苦痛)から	時間がとれ なかったから	仕事が休め なかったから	結果が不安 だから	費用がかか るから	その他	無 回 答
総数	100.0 (1,058)	30.5	16.5	29.8	3.2	6.1	25.0	9.7	6.0	10.9	7.1	4.6
男	100.0 (425)	<u>31.1</u>	14.6	<u>31.1</u>	3.3	4.7	24.9	<u>14.8</u>	5.9	11.1	6.8	4.9
40～49歳	100.0 (118)	25.4	12.7	13.6	5.1	5.1	44.9	27.1	5.9	11.9	11.0	5.1
50～59歳	100.0 (76)	34.2	14.5	23.7	3.9	3.9	32.9	27.6	7.9	18.4	2.6	7.9
60～69歳	100.0 (141)	29.8	16.3	36.9	3.5	5.0	16.3	5.0	4.3	10.6	7.8	5.0
70～74歳	100.0 (90)	37.8	14.4	51.1	-	4.4	5.6	3.3	6.7	4.4	3.3	2.2
女	100.0 (633)	<u>30.2</u>	17.9	<u>28.9</u>	3.2	7.1	25.1	<u>6.3</u>	6.0	10.7	7.3	4.4
40～49歳	100.0 (193)	28.0	13.0	12.4	6.2	9.3	40.4	10.4	7.3	14.0	8.3	3.6
50～59歳	100.0 (136)	26.5	19.9	27.2	3.7	11.0	27.9	8.8	11.8	15.4	9.6	2.9
60～69歳	100.0 (193)	33.7	22.3	38.9	1.0	5.7	18.1	3.6	3.1	7.3	5.7	1.6
70～74歳	100.0 (111)	32.4	16.2	42.3	0.9	0.9	7.2	0.9	1.8	5.4	5.4	12.6